

会員リレーコーナー

どうぞも
しばらくです



今回登場された会員からバトンを渡された会員の皆さんは次回の掲載になりますのでよろしくお願いたします。

東北電友会会報 編集委員会
※氏名の後の（ ）は退職年を示す。



千秋クラブ
鈴木 光雄(平17)

からのバトン

福島地区電友会 佐野 敬時さんへ

吉田さんご指名ありがとうございます。います。ある日の夕方突然の電話？みっちゃん解るか俺だ俺だ：懐かしい宮古電報電話局時代の吉田先輩からの弾けるような声の呼

び掛けでした。

新入社員当時の宮古での思い出が走馬灯のようによみがえり、翠嵐寮での独身謳歌、浄土ヶ浜でのキャンプ、岩泉での牛乳風呂等一気に20代の青春時代にタイムスリップ致しました。

初めての社会人生活で不安と緊張感で一杯でしたが、宮古での諸先輩や多くの仲間助けられ、その後のサラリーマン生活が楽しく元気よく過ごすことが出来ました。そういうことで、吉田先輩からのご指名も躊躇致しましたが、懐かしく又岩手での楽しかった日々を思い出しながら投稿しようと思えました。

仕事でも岩手には沢山の思い出があります、特に施設部線路課時代に経験した北上川氾濫に伴う

川崎局水害応急復旧と新たなルート設計等貴重な経験をさせて頂きました。当時の電電公社の迅速な対応、業界も含めた復旧能力の偉大さには、感動し自分も頑張らなければと強い決意で設計に参加し貴重な経験を頂きました。

現在は、生まれ育った地域で幼なじみとのコミュニケーションを大事に自治会の役員や社会福祉協議会員として地域活動を行っております。また、健康維持のため電友会ゴルフサークルに参加したり冬期間は、近くの温水プールで水中ウォーキングを行って、元気に過ごしております。

次の会員リレーは、同期入社
の福島地区電友会佐野敬時君に
願います。



現在は地元で地域活動を行っています



五ッ橋クラブ
吉野 勝美(平11)

からのバトン

五ッ橋クラブ 福原 雄さんへ

小山廣城さんからバトンを頂戴いたしました。氏とは「同期の桜」で、仙台在住の数少ない仲間の1人で、この歳になってももの長い長い友人です。

私は月に数日の五ッ橋ビル勤務を継続しています。電友会、いきいきネットワーク、OBサロンにおいてになる諸先輩やかつての同僚を見かけると思わず声をかけてしまいます。この外、NPO法人・一人の会宮城の介護調査員として、県内の施設を訪問調査しています。

退職者の会の手配り作業活動、町内会役員として行事全般関与。又、20年前に退職仲間で作ったゴルフ同好会「SG会」(年間8回のコンペ)の幹事など、自宅の暦

は適度にスケジュールが埋められています。

スケジュールの空いたところは孫が通う小学校の「絵本読み聞かせ」ボランティア・コーラスの会、朗読の会に忙しい妻のアッシーです。

先日、3ヶ月毎に問診を受けている市立病院内科の老先生いわく：「年をとっても、仕事して、頑張つて、刺激を受けているのが大切である。これが『健康法』です。」同感しました。ストレスをかけない程度の仕事・男女同権・真面目な生活が理想的と思つて過ごしています。



ナイスショット!

次のバトン先は、小山さんと共通の飲み仲間の五ッ橋クラブの福原雄先輩をお願いいたします。



大崎クラブ

鈴木 幸子(平25)

からのバトン

いちのせき電友会 木村久子さんへ

大泉美江子さん、思いがけずのバトンに、とまどいながらも嬉しく承りました。ありがとうございます。

パワフルで包容力に溢れた大泉美江子さんからは、いつも元氣と刺激をいただいております。尊敬する大先輩です。これからも宜しくお願い致します。

退職して6年目を迎えた生活の中心は、退職後に出会った方々や地元との交流、地域でのお付き合いなど、まさに「今日用がある」「今日行く」の日々となっております。

退職後に入学した宮城いきいき学園登米栗原校で、2年間の学園生活を送り、卒業後の現在も同期生の仲間達と、施設訪問ボランティア・旅行・スポーツ・文化活動と益々絆を深め歩んでいるところです。新たな出会い、貴重な体験と、とまどいながらも前に進んできた日々は、心の財産となっております。よりたくましくなった自分を感じます。

大崎クラブの絵手紙サークル「花野果」に参加しております。

先生のように素敵な絵を描きたいのですが、なかなか上達しません。それでも先生の優しい指導と楽しい雰囲気誘われて、古川迄通っております。やっと筆使いにも、慣れてきたかなとの歩みです。

何より生活に潤いを与えてくれるのが、趣味のガーデニングです。土いじりをしてしていると、いつの間にか何もかも忘れて夢中になっています。いいストレス発散になります。特にバラの花が好きで、気付けば40本位のバラに囲まれてます。見事に咲いた時のうれしい事。四季を感じ癒される瞬間です。道

行く人との花談義も楽しい季節となりました。

次のバトンは、木村久子さんです。かつて支社業務参加研修で一緒しました。家庭菜園に勤しんでるとか、宜しく願います。



担当教授から皆勤賞をいただく鈴木さん



五ッ橋クラブ

横山 信夫(平11)

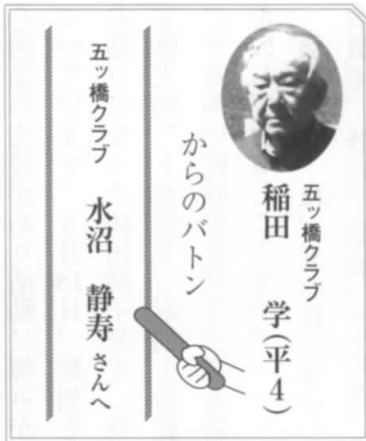
からのバトン

五ッ橋クラブ 田中 洋さんへ

この度、田沼正隆さんより会員

リレーコーナーへの寄稿を依頼されたので退職後の元気な生活を示すのも諸先輩、多くの友人、仲間達への感謝の気持ちを伝えられる機会になればと思い快諾したところです。私が築館支店に勤務していた当時、田沼氏は榴ヶ岡支店機械課長として勤務し支店をあげて通信機器等の販売に取り組んでおられ、その中でも驚異的な販売実績をあげていたのが田沼氏グループでした。人心掌握の仕方や動機付け等管理者として意識改革について大いに参考にさせて頂いた時期でもありました。平成11年退職後、子会社に勤めましたが、多くの方々の助けを得ながら充実した仕事を遂行することができたと思っています。現在は、サンデー毎日ですが先ず体を動かし体幹の鍛え方を模索した結果、ジムに通いストレッチ等が最良の健康づくりと思ひ励んでいます。また散策やノルディックウォーキングも取り入れて健康維持に努めています。町内会との関わりを持ちながら退職者の会塩釜地区協の役員としてお世話させて頂いております。次

のバトンは東北総支社時代に同僚であった田中洋さんに寄稿をお願いいたします。私が築館支店で組合対応の窓口として「新経営改善計画」の導入時に田中氏に組合説明用の参考資料を要請したところ期待以上の資料を頂き組合対応がスムーズに運んだ事が嬉しく思い出されます。それ以来、長い付き合いが続いております。



中島紀夫さんからバトンを受けました。

昭和10年生まれの83歳になりました。昭和20年8月の終戦は小学4年生10歳の時で、戦中戦後の激しい変革の歴史を純情な少年期に体験をしている世代です。敗戦国日本の昭和20年、64年は目覚まし

い復興を成し遂げた時代です。私達が務めた電気通信事業も飛躍的な技術革新を進め、今日のインターネット、スマートフォンなどの骨格を完成させました。平成4年の退職ですから25年間も過ぎてしまいました。年月の経過の早い事、驚くばかりです。この機会に退職後の我が身を振り返って見ることとしました。退職時は、既に倅と娘は家庭を持ち都市圏で生活しておりました。わが家は家内との2人の暮らしです。家内は町内の役員や生協の役割などに精を出して生き甲斐を楽しんでいる様子でした。私に対する家内の言い分は「長い間お勤めご苦労様でした。どうぞご自由にお過ごしね。ただし室内禁煙よ」凡人閑居してやることなし、タバコの煙と灰を撒き散らす、厄介者でした。幸いにもこの時期に現役時代の仲間と海外旅行を誘われ、禁煙が必須条件となり断煙できました。今日の健康維持は断煙のお蔭と思っております。至極元気な家内でしたが、中学時代のクラス会旅行先で転倒し大腿骨骨折となりそれが起因で車椅子

の生活となってしまいました。私の介護の生活が5年間続きました。先立って逝かれました。残されて1人暮らしとなりましたが、炊事・洗濯・掃除・健康チェック等生活の基本動作を実行しております。そろそろ老いへの「ケジメ」とか言われておりますが、まだ身辺整理には手付かず、時の過ぎ行くまま明日への僅かな安らぎを念じながら暮らしております。次のバトンは仙台電話局勤務以来、信頼・親交している水沼静寿さんをお願いいたします。



若い頃は通信局の施設部施設課や退職後はTTKで一緒に、現在も家庭菜園などで何かと親しくさせて頂いていただいている大澤孝夫さん

からご指名ありがとうございます。
ご承知の通り、地域の公民館は生涯学習推進の地域拠点施設として明るく住み良い街づくり等のため支援活動を行っています。私の地域の公民館の館長は、NTT出身者が、三代（初代は私）10年以上に亘って続いております。良い事に、代が変わる毎に評判が良く、地域住民のため立派な活動をしている姿を見るにつけ後輩の公民館長を誇らしく思っています。
このことは、NTT民営化時代に学び経験したCS活動（お客様第一の視点での行動）や地域に役立つ情報通信のノウハウ等を持っていることが背景にあるのかなあと思っております。NTTに感謝です。

私たちの街には、多摩美術大学彫刻科、東京藝術大学彫刻科等出身の著名な彫刻家がお造りになった作品37基が設置され緑豊かな自然と調和し生活に彩りを与え、子どもたちが子どもらしさを発揮するための環境がここにあります。
しかし、設置後28年を経過し汚損等が進んでいることから、設置

当時の姿・環境を取り戻したい、継続的にメンテナンスする仕組みを作りたいとの思いから、本年2月、私たち高齢者仲間とともに、「那智なかアート」を再生するPTTを立ち上げ活動を始めました。今年4月には、本PTTが、名取市市制60周年記念事業に採択され、物心両面の支援があり活動に弾みがついています。5月15日、彫刻をお造りになった岡田純子先生（東京藝大院）をお招きし彫刻を綺麗にする等の勉強会を開き決意も新たにしているところです。
会員リレーは、五ッ橋クラブ
会員で、詩吟、剣舞、居合道、

2011年4月1日(水曜日)

街の宝 彫刻群再生へ



名取那智が丘住民補修計画
秋に実施 活性化目指す
PTリーダー田端さんの意気込みが掲載された新聞記事

弓道等で指導者として多くの仲間とともに活動している田端留美子さんをお願いします。



五ッ橋クラブ
阿部 昌(平)
からのバトン
青森地区電友会 堀川 賢一さんへ

電電時代から協力会社と、折折で大変お世話になりました高田孝敏さんよりバトンをいただき、嬉しいやら恐縮するやら（少し大変）。有難うございました。

退職後もそれなりに元気に過ごしています。現役時代から続けているマラソン（？）についてかいつまんで記したいと思います。観光等も兼ね年2回程地方のイベントに出かけています。始めた当初は「たかが5キロメートル」との思いでしたが、最近では「されど5キロメートル」となり、ジョギングマラソンになりました。始ま

りは松島マラソンで一時期は30人程で走り、その後50人程で盛大な宴会が思い出です。さくらんぼマラソンでは参加賞に10粒、参加者の分だけで13万粒、木何本分かな？ラ・フランスマラソンでは、食べ放題といわれても走路途中そんなに食べれるものではありませんが、おみやげに沢山いただきました。りんご畑の中を壮快に走ろうとアップルマラソンに参加。しかし5キロメートルコースでは、りんご畑に到達する前に折り返し、住宅街マラソンに終わりました。地獄坂ロードレースでは「駐車場はありませんので道の片側に止めて下さい」と言われ、坂を登ること1・5キロメートル。まさに走る前に地獄坂!!今年はどうなコミックがあるか楽しみです。

このリレーが縁で温泉につきりながら、楽しい一時を過ごすことができました。本当にありがとうございます。次のバトンは、公私共にお世話になりました堀川賢一さんをお願いします。

会友コーナー

文芸

俳句

短歌

川柳

詩

随想

文芸欄



俳句

福島地区電友会

加藤 良栄

雪溶けて老いた松にと戻りけり
我が庭の深雪動かず独り酒
恋猫の我を無視して鳴きにゆく

福島地区電友会

関戸 武

山の音雲運び来し日脚伸ぶ
城跡のどこか水音若葉風
指先に灯を点しつつ風の盆

弘前地区電友会

倉谷 景子

子供の日怪獣映画二本立て
風止まる植田に光る空の色
野仏を沈むる青や螢草

五ツ橋クラブ俳句同好会

青山 誠一

おぼろ夜の潮騒のこる古き磯
リハビリに集ふ老人秋晴間
下北の首のあたりの炎暑かな

泉 アヤ子

ひと雨の庭にしだるる柳の芽
日の温み路の裂け目に草萌ゆる
ひとつずつ神のおはじき春の星

齋 仁一郎

猫の子にほほ舐められる女の児
昔むかし祖父の隣に日向ほこ
秋晴や亡妻によく似し笑い声

佐々木栄一

冨こがらしの軒朽ち果てし村外れ
今生の重しを背なに老の春
佛前に亡母の口傳の草の餅

富樫 瞭

亡き人に似たる顔あり花曇り
モノクロの庭に紅さす寒椿
妻の手にささくれ残す別れ霜

川柳

五橋川柳会 会員作品抄

赤木 邦夫

親ごころ知らず勝手に遊ぶ雛
愛妻弁当自分だけです恥ずかしい
ドラフトの一番人気いまいずこ

金澤 克人

帰省する子を待つ母のちらし寿司

決戦は僕のリズムで決めてやる
自由とは斯ういうことか朝寝する

小柳 芳雄

断捨離の邪魔をしている積ん読書
渡るたび衰えを知る歩道橋
指定より性に合ってた自由席

齋藤 弘一

バウンドをして考える着地点
旧漢字いまま使って深む古い
コスモスが微笑みかえす帰り道

短歌

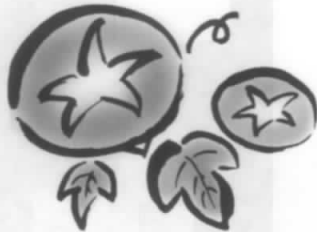
八戸地区電友会

加藤みさを

平和への感謝を胸に若きより
「非核三原則」呼び続け来つ

一羽のみ群に混じらず川に浮く
人間社会と同じか鳥も

蓮の葉の一夜の露の水玉を
池に落として風は去りたり



I'm a Craftsman.



野球で言えば、勝負どころで代打として登場する職人肌
の切り札といったところでしょうか。私たちの工場には、
40年間ずっと働いている単色の印刷機があり、それを使い
続けているスタッフがいます。近頃、お呼びがかかるのは
年に数回。しかし、ここぞというときに、その力をフルに
発揮して、注文通りの仕事をキチッとこなす。今や印刷機
械もハイテク化が進み、人間が脇役のような感すらあり
ます。しかし、機械が進化すればするほど、問われるの
は機械を使いこなす人間の創造性のようなのです。最先端
の機械が私たちの工場でもレギュラーとなった今、一つの
古い機械を通して脈々と受け継がれている、クラフトマン
・シップにこだわり続けていきたいと思ひます。

 株式会社 仙台紙工印刷

Sendai Siko Printing co., Ltd.

〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14 TEL (022) 231-2245(代) FAX (022) 231-2247
企画・デザイン部 / TEL (022) 231-2251 FAX (022) 231-2252
E-mail: info@sendai-shiko.jp URL http://www.sendai-shiko.jp

随想



ローマの休日のその後



八戸地区電友会 青山 敏枝

私が入社した当時の八戸局は共電式の交換台で接続は全て手作業でした。やっと仕事にも慣れその日も次々と点火する呼ランプに応答、接続の作業に追われていた。そして午前中の呼のラッシュも一段落した頃すぐ目の前の呼ランプが点火「何番へ」とゆっくり応答すると「〇〇番」とソプラノの良く通る声が返って来た。あれっ！この声にこの番号は？俄に私の記憶のスイッチが入り回り出した。改めて呼ランプの番号を確かめると同級生の勤め先の番号だった。思わずKちゃんと呼びかけアオヤマですと名乗った。K子はもうびっくり。わあ！どうなってるの？どうすればこんな事になると驚きの連続。これに氣付いた隣席のSちゃんがコードの先で私の腕をつつきアゴを上下に動かしながら話を続け

て良いよ！とサインを送ってくれている。30秒位話しただろうか。私は「何番ですね」おつなぎしますと云って何時もの作業に戻った。私はSちゃんに礼を云いながら、「彼女も公社を受けたが家が遠いとの事で履歴書を返されたそうで」と話すと、じゃあもしかすれば一緒に働いていたかも知れない人なんだと頷いた。

やがて昼食時間に入り早出のSちゃんは食事へ、私は最後に12時半に席を離れた。すると後からSちゃんが一千番一千番を連呼しながら受話器を持つ動作をくり返している。

私は良く意の解らぬまま急いでデスクの課内電話を取ると呼出音が鳴ったと思ったらすぐにK子がソプラノの声で出て来た。ここで初めてSちゃんの心配りに気付き、当然台では話せぬ話の続きが出来て嬉しかった。それ



旅先にて

から数日後私は友達と繁華街の喫茶店に集まっていた。映画ローマの休日を観るために。初めからヘップバーンは2回観ようと決めて上映時間もバッチリ調べいざ映画館へと向かった。

美しい主人公とローマの街並、存分にローマの休日を堪能して外へ出ると陽は西に傾きかけていた。その日は奮発して夕食は寿司と決めており少し離れた寿司屋へと急いだ。

店内には客は私達3人だけ。それを良い事にすしをパクつきながら観て来たばかりのローマの休日を話題に店のスタッフまで巻き込んで盛り上り大満足の中にお開きとなった。あれから60余年の歳月が流れ、三人三様の人生を送りながらも元気で80代を迎えた今は人生の休日を大切に過ごしている。

K子は子供達や夫の想い出が詰まった郊外の家で花を育てピアノを習いカラオケも楽しみなが1人暮らし、Y子は長男が建てた二世帯住宅で野菜を育てカルチャー通いに余念がない。私は交通の便に恵まれた街中のマンションで1人暮らしで趣味に明け暮れている。遠いあの日に私の為に粹な計らいをしてくれたSちゃんはあの後間もなく脳腫瘍で20代半ばの若さで旅立ってしまった。思い出すと本当に切なくて残念でならない。しかし私も

そのうちに黄泉の国で若いままのSちゃんに会える日を楽しみにしている。

わたしは電話交換手



電友会さくらんぼ 土田 とみ子

今では電話交換手と言う職業は広辞苑にすら書かれておりません。もう死語になったようです。

私が就職した頃は、あのレシーバーをかけたスタイルがなんとも格好のよいものでした。紺色に白色のへちまカラーの衿元、それに大きな白のブローが1つ付いておりました。

寒河江局は小さかったので磁石単式の交換台で、1台に80加入が収容されておりました。

加入者（お客様を失礼ながらこんな呼び方をしていた）から呼ばれるとシャッターが開き急いで対応する。ジャックにコードを挿入し、「何番へ」と応対し言われた番号に接続する。

こんな簡単な作業でしたが、大きな誇りと責任を感じながら毎日を過ごしていたものです。電話交換手の仕事に就くには、3ヶ月間の座学による勉強があり、その後3ヶ月間の実務を経てようやく職員としての辞令が頂けるの

です。

最も大切な事として教わったのは、通信の秘密を守ることでした。このことをしっかりと心にたたき込み仕事をしました。終日勤務の職場のため3交替制で宿直勤務もありました。仮眠する際には夜間ベルをセットし、電話が入るとけたたましいベルが鳴り、宿直当番者が一斉に飛び起き対応することになります。

当時の寒河江の電話の加入数は500位だったと思います。それでも、日中はいつも忙しくて、初心者の私にとっては大変なものでした。

交換台も市内と市外台があり、私のような初心者は市内台だけで、毎日「何番へ」「何番へ」の連続でした。市外台を担当できるのは2年目位からだだったような気がします。

町の中で火災などが発生すると大変です。一斉にシャッターが開き、対応しきれずパニック状態になるのです。

市外台を担当させてもらえるのは、それなりの経験と技量がないと無理で、それだけに1つの目標でもありました。機敏に対応しないとお客様の苦情にもつながります。特に、魚市場からの呼びには緊張しました。なにか暗号のような話し方で、新米の私にとっては

恐ろしい存在にさえ思えました。生もの扱いですからのんびりしてられないのは当然で「このポケ！」などと怒鳴られることも度々でした。いま思い起こせば、そんな試練が仕事を覚えさせてくれたのだと感謝しております。

こんなエピソードもありました。当時のラジオ番組に「君の名は」と言う全国的な人気番組がありました。たしか毎週木曜日午後8時だったでしょうか、お客様の顔もわからず、声だけで対応する私たちの仕事は、その番組とも重ね合わせ、乙女チックな気分には浸らせてくれる電話交換台でもありました。

真夏の冷房は太い氷柱、冬の暖房は大きな火鉢でした。あの狭い交換室に30数名の女性が頑張っていたことが懐かしく思い出されます。500回線程度の電話を30数名もの職員



60数年前 電話交換手

で担当することなど、今では考えられないこととです。

60数年前のことながら、当時の温かい職場の雰囲気、そして先輩の優しさ、仲間の絆がこの間のことのように懐かしく思い出され、慣れないペンをとり投稿させていただきました。

健康維持



弘前地区電友会 長谷川 孝博

随想依頼が届きいささか戸惑いました。もうすぐ65歳という高齢者になり、家事と母の介護及び孫のお世話が殆どである自分が何を書いたらいいのか。考えたことはありのまま、そして今後が変わらないであろう毎日について、読んで頂ける会友の皆様へ少しでも同感いただければという考えでまとめました。

テーマは「健康」です、とは言っても私自身毎月3箇所の病院へ行って薬をいただいで服薬しているのが現状で甚だ説得力に欠けませんが、どうかご容赦下さい。

健康に一番の薬は「いい気持ち」になることであると本で読んで学びました。いい気持ち

ちになるにはどうしたらいいのか、私の考えは好きなことをすべきと思っています。

私の好きなことは音楽です。小学4年生頃から洋楽に惚れこんでそれ以来今日まで音楽が欠かせない毎日です。ジャンルはBLUE Sで黒人がルーツの音楽です。ロックンロールやジャズの基盤になったものであります。在職中は聴く方だけでしたが退職後はギターを持参しライブで演奏したり歌ったりしてます。定期的に弘前のギターおやじが集まって飲んで食べて歌って、わいわいやってます。

そのなかでも時折り、興味を持った若者が参加し老いも若きも一緒になって楽しい夜を過ごしてます。音楽の話になると、あれやこれやできりがありませぬ。楽器やアンプそしてお気に入りのCD等、会話が弾みます。

それと音楽につきものはダンスというのが私の持論です。ノリノリになると血が騒ぎ肉が踊り自然と身体がリズムをとるようになりつついっしょに踊ってしまいます。そこで得たのが「サルサ」というキューバダンスです。ダイナミックで軽快なダンスです。お気に入りの音楽とサルサダンスで気分は最高です。

音楽とダンスは私の健康維持の薬となっています。サルサダンスは老若男女が一堂で踊れる楽しいダンスです。ダンス好きな方には

是非ともお勧めいたします。

まとまりのない、乱雑な文章ではあります。健康維持の参考になれば幸いに存じます。

1度は訪れたい奇跡の島、

世界自然遺産の小笠原



福島地区電友会 佐山 潔

4月3日から8日まで、5泊6日(2泊は船内泊)で、小笠原の父島に行ってきました。小笠原父島は東京より南に1000キロ、太平洋に浮かぶ絶海の孤島で、船で24時間かかります。船内での時間はたっぷりあるので、甲板のテーブルに座り、仲間と景色を楽しみながら酒を飲んだり、船内で焼き上げたアツプルパイとコーヒーを飲みながら楽しんだり、夕食、朝食を船内食堂で味わったり、甲板から夕日、朝日を眺めたりしておりました。

翌日の朝に甲板に出ますと、風が温かく感じられ南に来ているんだな、と実感しました。

・4月4日

11時 小笠原二見港へ到着し、宿のスタッフから、お帰りなさいと迎えていただきました。荷物を預け、徒歩で食堂へ行き、昼食(海

鮮丼)をいただきました。付いてきたお新香はパイヤの新芽でした。

13時からは、地元ネイチャーガイドとめぐる自然観察へ出かけ、まず案内されたのは、青く澄んだ海に、第二次世界大戦時に魚雷攻撃を受けて座礁した貨物船の残骸でした。

その後、景観のよい展望台数箇所案内していただきましたが、天気が良かったせいか、海の色は南国独特のボニンブルーの色合いで白い波はより白く引き立っていた景色に感動しました。高台にあるウエザーステーションからは、鯨の親子が泳いでる姿を見ることが出来、予定されているホエールウォッチングに期待感が高まりました。帰りに亀センタに行きましたが、卵から孵った亀を育てておりました。ちょうど、勉強で訪れていた小学生が、亀を海へ放流しているところでした。小笠原では亀を食べる文化はありますが、亀の保護にも力を入れていることを知りました。

19時からは、ナイトツアーに出かけ、まずは「オガサワラオオコウモリ」を農園へ探しに行きましたが、周囲に明かりが少ないので、満天の星を見ることが出来すごく感動しました。ガイドさんの案内でコウモリにも会うことが出来ました。又海岸へ移動し、「オオヤドカリ」を探し、発見し観察することができ

ました。帰り際に港に立ち寄り、照明下に集まる魚を観察。観ていたら、1mの大きなエイ1匹と、2m程度の鮫2匹が寄ってきてビックリしました。

宿泊は、パパスアイランドリゾートで、カントリー風のインテリアで、食事も評判のよい居心地の良い宿でした。何よりも、宿の奥様が宮城県石巻出身だということで何か親近感がありました。

・4月5日

午前中は、新東京100景の無人島の南島への上陸、観光となりますが、外来種の種を持ち込まないため、靴裏を洗浄、衣服に付い



南島に上陸した私

ている種を粘着ローラで除去してから小船へ乗船します。

移動中は、ボニンブルーと呼ばれる小笠原特有の青い海の色に接し、小笠原に来たんだなあと実感がしました。波の状況によっては上陸出来ない場合もありますが、なんとか、船着場へ船を寄せることが出来、岩場を3m登り島へ上陸しました。島は在来種の草花、半化石化した多くの貝殻を見つけることが出来ました。持ち出しは禁止です。南島からの帰り際に、島で繁殖する、白黒のツートンカラーの大型の海鳥、カツオドリに会うことが出来ました。

午後はこの時季はホエールウォッチングのベストシーズンで、子育てのためにやってくる、ザトウクジラの「ブロー」(息吹き)、潜る際に尾びれが海面に出る「ブルークアツプ」を見つけ、船はクジラの元へ急ぎます。潜ってから浮上するまで10分〜15分かかります。体長の3分の2以上が海面から飛び出す大きなジャンプ「ブリーチング」(背面飛び)は、迫力満点で強い感動を覚えました。浮上する場所を想定し、カメラで撮影しようと構えましたがなかなか狙った場所に浮上せず、苦勞しましたが、やっと、奇跡の1枚を撮影することが出来ました。

・ 4月6日



奇跡の1枚

午前中のネーチャガイドと巡る自然観察では、絶滅危惧種のアカガシラカラスバトのサンクチュアリーへの森へ散策に行きましたが、残念ながら見つけることは出来ませんでした。しかし、水溜りに透き通ったエビ、小笠原アメンボを観察することが出来ました。

午後からは戦跡を巡るツアーで、壕には高射砲、高角砲が、移動途中にはビン、食器が残されており、悲惨な太平洋戦争があったんだと思うものがありました。散策中に、偶然アカガシラカラスバトに出会うことが出来、本当にラッキーでした。



旧日本軍の高角砲

夕食は地元の居酒屋を紹介していただき、「洋風居酒屋CHAKA」に行きましたが、店の看板に「新亀入荷」と書いてあったので、せっかくだので酒のつまみに、亀の刺身、亀のレバー刺しを注文。さっぱりしておいしかったです。

地元の酒はサトウキビで作ったラム酒です。特に母島の海底で熟成させたラム酒は絶品でした。

・ 4月7日

朝早く起きて、周辺の砂浜を散策したり、ビクターセンタに行ったりのんびり過ごし、15時30分に父島から東京へ向け出港しました。

出港の際は、地元ボートの見送りがあり、中には海へ飛び込む方もおり感動しました。
☆その他

・ 鳥レモンで造った「地域限定プレミアムチュウハイ」もさっぱりしておいしかったです。（地元、小笠原丸船内で販売）

・ サワラの島寿司（漬けに山葵の代わりにからし）が夕食に出ましたが、酒のつまみに最高でした。

・ コンビニはありませんが、コンビニに近い店があり、値段はやや高めです。

・ 東京都なので道路は立派です。

・ 携帯電話の使用は可能です。

・ 病院はありませんが、診療所があります。

・ 船の揺れですが、東京湾内は揺れませんが、外洋に出れば多少は揺れます。船酔いする方は、早めに酔い止め薬を飲めば大丈夫です。

以上ですが、今回は天気も良く、小笠原の自然とのんびりした時間を満喫することが出来ました。また行きたくなる島でした。



仙台・追憶



千秋クラブ 工藤 敏夫

今から60数年前新人として榴ヶ岡の旅館「梅林」でPBXの保守技術訓練を受講した。講師は湯目さん、聞きなれない姓だったが私が仙台へ転勤し、刀剣鑑賞の会でお逢いし伊達家とゆかりある方だと知った。

当時は秋田から仙台に行くのに、北上線で1日がかりだった。初めて見た仙台の空の明るさ、暖かい気温、街の賑い、日本海側の秋田から出て行った私には太平洋側の仙台が大都市だと実感した。仙台駅の近くに大きなビール工場があった気がする。

出張で民宿していた宿ではおばさんが、出勤する時に毎朝「お静かに」と声をかけてくれ、品のある言葉だと思った。長沢さんと言う方だった様、東一寮にお世話になっていた時、繁華街に近かったので寮のおかみさんは帰寮時間には厳しかったが、若い頃の私にとっては正しいことを言ってくれ、ありがたかった。また何かあったらと炭と七輪を用意しておいたので昭和の震災の時役にたったと聞いて、さすが年の功と感心したものだ。建設部の借役で、仙台本局での市外交換設

備。長町分局開始に伴う工事等の監督補助として働いていた。監督は藤島さんで秋田出身の方だったので秋田弁が通じ心強かった。工事長は日通建の菅野さん、仕事に詳しくて親切に接してもらい、勉強になった。

監督事務所で机を並べていた庄子さんは田舎ものの私に、持ち前のざっくりした気質で文学にも精通しておられ仙台のことをいろいろ教えてくれた。仕事から離れてからは、東北大学附属病院の白菊会の会長さんを永くやられたとお聞きして立派な方だったと思っ

ている。角五郎新町の社宅から市電で八幡町、五橋間を通ったことなどもあり2度の仙台への転勤や出張などで知り合った仙台の方はみな親切で気配りが上手なのに、どこか俠気を感じさせてくれた。それは伊達藩の伝統気質の中に潜んでいるのかと思った。

「仙台へ行ったらおでんの三吉に行ってみろ」と教えられた。稲荷町の三吉のカウンターに座りねじり鉢巻き姿の親父さんと話はずむ。親父さんが秋田商業の同期のお客さんとの話の中で「俺はお前達より授業料長く払ったから学校から感謝されてもよい」と笑いながら話していた。

終戦の頃屋台を引いていたこともあったそ

う。一番町界限で有名だった田村さん。三越デパートにも鉢巻き姿で行っても店員さん達に好まれたようだった。

彼が秋田のホテルで三吉の周年記念パーティーを開いた時は政治家の資金集めパーティーを凌ぐ三吉ファンが集まり、彼の人を引きつける魅力に感服した。古里の人々を喜ばせたパーティーだった。古里へのお礼だと言っていた。

三吉は仙台で秋田の味を味わって秋田のことを思い返す憩いの場でもあった。仙台は私の第二の古里となった地である。

明治150年を考える



盛岡電友会 和井内 和夫

今年には明治維新から150周年に当たる。それを記念して政府は記念式典を行うそうであるし、また明治政府の樹立に関わった人物を多くを輩出した鹿児島・山口・高知・佐賀などの各県でもそれぞれ記念行事を行うようである。

東北でも戊辰戦争で大きな被害を被った会津若松市では、行政・民間共同でもまたそれ

それでも記念行事や記念事業を行うとしている。その他現在分かっているところでは盛岡と仙台でも記念行事が計画されているそうである。

明治政府確立の前提となった事件の1つが戊辰戦争であるが、それに対する見方はいろいろである。

明治以来語り継がれてきた「正義の薩長による東北の賊徒征伐」は、東北人としては受け入れるわけにはいかないのは当然である。

盛岡では大正6年(1917)戊辰戦争50周年を記念して「戊辰戦争殉難者50年祭」が行われたが、そこで翌大正7年総理大臣に就任する原敬が読み上げた祭文の中の「戊辰戦争は政見の異同のみ」の言葉が有名である。当時奥羽越列藩同盟を主導した仙台藩にもまた盛岡藩にも、国政について政見は経略と言うほどのものがあつたとは考えられないことから、「政見の異同」は単に見解の違いと理解すべきであろうが、新政府と戦ったこと悪ではないということも明言しているわけであらう。われわれ東北人として改めて銘記すべきであらう。

前記のように国や各県で記念式典を行うとすれば、当然明治維新に関わった人物の顕彰ということがあると思われる。その対象は維

新の功臣・明治の〇傑とかと言われる人たちなどであろう。

明治維新の諸変革を遂行したそれらいわゆる維新の功臣などの功績を認めることはやぶさかではないが、薩長両藩関係者が企んだ戦争のための戦争である戊辰戦争、またその前の幕末騒乱期から徳川慶喜に大政奉還をさせるまでの権謀術数や、政権争奪後隠忍する徳川側を挑発するためにやった悪行などは、とても正義とは言えるようなものではない。

前出の原敬の祭文に「勝てば官軍負ければ賊軍」という言葉がある。「歴史は勝者が作るもの」ということや「結果良ければすべてよし」という御都合主義を言ったものだが、「成功者」この場合は維新の功臣などであるが、それらを無条件に褒めたたえることは、幕末戊辰期、明治の歴史に対する理解を誤らせることになると思われる。

記念行事を主催する者の戊辰戦争観そして東北観を問う意味で、この問題をどのように扱うのか興味深い。

会津三十三観音めぐり

電友あさか会 齋藤 弘

東北で最も早く仏教文化が開いた「仏都會津」。会津各地に伝わる三十三観音めぐりを宿場町や街道をたどりながら、往時の会津の人々のおおらかな信仰の風情を体験するストーリーが日本遺産に認定された。観音菩薩は現世に下りて、三十三身に変化して私たちの求める声に駆けつけてくれるといわれる。

古くは四国から始まった三十三所の観音巡礼であるが、会津での起源は寛政20年(1643)保科正之公の入封以降と伝えられる。当時、領民の間では伊勢参りや西国三十三観音めぐりなどが盛んで、多額の費用が領外に流れていくのを案じた正之公が高層らと計り会津にも三十三所を定めたとされている。おもに農村部の女性が田畑の仕事が一段落した7月頃に、白装束に笠をかぶり、講仲間とともに「御詠歌」を唱えながら三十三観音札所を巡礼して回った。

・会津ころり三観音の教え

観音経で言う三毒消滅の観音霊場として著名である。三毒とは仏語で「貧」(とん)む



さぼる邪心の心、「瞋」(じん) 腹を立てる怒りの心、「痴」(ち) 愚痴を言う不平不満の心である。この三様の悪い心を、三観音を巡拝して仏の慈悲にすがり消し去ることである。そうすると、御仏の導きで心に安らぎが宿り、諸病がなくなり、健康に恵まれ、長寿を全うして、やがては病に伏すことなく「ころりと大往生」が約束され、来世には極楽に往生できるといふ教えである。

◎第30番 弘安寺 中田観音

長者が娘の供養として銅造十一面観音を創立 不動明王、地藏菩薩

◎番外3 如法寺 鳥追観音

行基作の秘仏聖観世音菩薩 身代わり仁王、毘沙門天

◎第31番 恵隆寺 立木観音

木造千手観音菩薩、二十八衆、風神、雷神等30余体、お堂せまし

◎特筆第10番札所 瑠璃光山 勝常寺

徳一上人開山、薬師如来、日光・月光菩薩、十一面観音地藏菩薩二体、聖観音像、四天王四体、天部立像、両脇侍、徳一像

《小生 三毒の塊 健康お礼参り あわただしく結願 合掌・・・》

蒲生氏郷について



五ッ橋クラブ 小坂 仁

85歳。手足が動くうちに先祖と亡き妻の生家のお墓参りにでかけた。

どうしても最初に訪ねたかったのは、会津嶺の国であるふるさと若松の基礎を築いた蒲生氏郷のお墓と木像のある興徳寺であった。

氏郷は秀吉によって伊達政宗に対する牽制のため奥州五十余郡の北の護りの武将として任命されたのは35歳の時であった。千利休自刃の後、遺児少庵を若松に庇護し、茶の湯を学ばせたのも氏郷であった。鶴ヶ城にある麟閣は氏郷と少庵ゆかりの茶室である。

今日、日本人の魂のふるさとである茶の湯は、少庵の精進のたまものである。若松という地名、鶴ヶ城というお城の名称は誰がつけたのか。鶴ヶ城は氏郷が入府するまでは黒川城と呼ばれ政宗が2年間城主であった。

若松の「若」は、氏郷のふるさと日野に若松の森という地名があったことに由来し、鶴ヶ城の「鶴」は蒲生家の家紋が「立鶴紋」で、氏郷の幼名も鶴千代であったことによる。4年間ではあったが、氏郷は若松を限りなく愛し、今日の繁栄の土台を築いた。

限りあれば咲かねど花は散るものを

心みじかき春の山風

氏郷の辞世の歌である。いざたどらまし死出の山道。若松での人生は4年間、40歳で没した。あまりにも短い人生であった。歌碑と遺髪が収められている五輪塔に手を合わせていると何故かこみあげてくるものがあつた。会津嶺の国をさ遠み逢わなはば

偲びにせもと紐むすばさねへ萬葉集の意識・会津嶺の園、会津を離れ防人となつて遠い筑紫の国へ行きます。もう会えないかもしれない。今生の別れの思い出に心(草鞋)の紐を堅く結んでください。

道端の雑音(その8)



五ッ橋クラブ 若松 芳陽

・年賀状を頂いて・・・感謝

今年の正月も、元上司・先輩・同僚・後輩そして兄弟親戚等々、多くの方々から年賀状を頂き感謝している。

絵手紙、版画、家族の写真入、海外旅行の写真入などなど。特に嬉しいのは添え書きのある年賀状である。

「何とか元気でやっているよ、そちらはど
うだ」「久し振りに日本を脱出した」「孫の部
活応援で暇なし」なかには、「テレビで見た
頑張れ」など激励の文字があったり、年賀状
を読み返しては、ひとり一人の顔、ご家族と
の楽しい様子を思い浮かべながら、正月気分
を味わっています。

そこで、世情的にゴタゴタ劇等の多いせわ
しい昨今であるが、我々の年齢になると年賀
状だけでも、ゆっくり見たいものだと考え、
私も年賀状に「一言添い書き」をするように
努めています。

年齢を重ねるにつれて、何事にも感謝の念
が沸くようになってきたこの頃である。

生きていけると言うことは

誰かに借りを作ること

生きて行くと言うことは

その借りを返して行くこと

誰かに借りたら

誰かに返そう。

・健康志向・・・日常活動を

健康第一を最優先とし、私は85才当面88の
米寿を目標に頑張っている。

以前は、5年刻みで目標を考えていたが、
これも加齢と共に体力の減かな?と思う。

そのために、定時起床6時30分に心掛け先

ずストレッチ体操、次にラジオ体操第一そし
て全身乾布摩擦を年間を通して継続中である。
朝食後は、新聞を一面から全ページ?に目
を通す1時間30分位、最後はテレビ放送欄に
興味のある番組にマーキングし、放映を楽し
んでいる。

趣味のボウリングは、週1回4ゲーム程度
投げ、水泳は温水プールで(サウナ付き)こ
れも週1回は泳ぐように努めている。

昨年の東北労金主催のボウリング大会(64
名参加)において団体で優勝(1チーム4名)
個人で準優勝をした。

活動としては、政治活動で地域の方々ほか
各種団体の皆さんと積極的に交流を図ってい
る。(衆議院議員岡本あき子後援会「岡本あ
き子の会」会長)

「N退職者の会」の会員太白地区400余
名と共に会員相互の親睦と助け合い活動を第
一義とし、N労組現役の仲間と各種活動を実
施している。(N労組退職者の会太白地区協
議会会長)

平成11年から参加しているNグループボラ
ンティア杜の会活動「電電の杜・五橋公園」
の清掃作業月2回、会員皆でワイワイ楽しく
頑張っている。(杜の会副会長)

そのほか人権擁護の推進、保健医療、福祉

の増進を図る目的で設立された「NPO法
人一人市民委員会宮城」の会員として、介
護サービス事業所の調査業務を10年以上関
わっている。(厚労省嘱託調査員)

◆会友コーナーへの投稿について

◎他紙等への二重投稿はご遠慮願います。

◎随想コーナーへの投稿については誌面の都
合上、左記内容にご協力をお願いいたします。

○掲載・・・年1回

ただし、投稿数が多い場合は次号に持越し
とさせていただきます。

○字数・・・1200字以内厳守

○次回締切り・・・平成30年10月20日厳守



でんでんみちのく

川柳コーナー

お題は自由です。
お気軽に
応募ください！

まだ役に立てそう笑顔下げていく

館山 生木

ミゲル見て孫をダブらせ目に涙
マスコットタケルにサクラとネーミング
町会長進退をかけ2年目へ

○千秋クラブ

高橋 幸雄

群れなして彼岸知ってか啼くカラス
春の声広告チラシ厚さ増し
花を愛で鼻を近くし香り愛で

柏谷 武

アルバムに謝りながら整理する
好奇心 齢忘れて一人旅
イイ話かけ引きなしが輪を広げ

○五ッ橋クラブ

山ボーイ

古希がきて働き蜂も針丸く
ジム通いマイカー降りてバイク漕ぐ
父の年越えてしみじみ想う古希

◎投稿は紙面の都合上、一人3句までとさせていただきます。多数投稿されている場合は

勝手ながら編集担当で選定いたします。

○福島地区電友会

ほけ老人

夜散歩何処から来たのと尋ねられ
手を繋ぐ昔恋人今介護

齊藤 政夫

祖父母から御褒美期待励む孫
免許証返納時期は誰が決め

三森 陸美

避難村主は野生の獣だけ
来てくつちゃおらが自慢の花見山
付度を知らぬ顔の半兵衛さん

高橋 敬一

子供らの歌でオープン花見山
桜過ぎ山は緑に衣替え
登り坂まだ道半ばと気合入れ

○電友あさか会

山田 茂夫

フクシマを最後にしたい核汚染
カケもモリもうんざりと言う総理
少子化で犬が乗ってるベビーカー

○八戸地区電友会

和 吾

P K 戦 笑いか涙か足先
ロボット君俺の仕事は残してよ
ほどに生きた人生平和です

○弘前地区電友会

ゆきやなぎ

連休が明けて自由をとり戻す
まだいけるのびしろと言う好奇心
ざんねんな生き方だけど幸せだ

○青森地区電友会

秋田 稔

一人ではないさ太陽友がいる
走らねば昔の影が追ってくる

NTT東日本から退職者の皆さまへ

■長寿お祝いについて（勤続20年以上の退職者対象）

NTT東日本社長からのメッセージを添えた「カタログギフト電報」と花を贈呈させていただきます。

長寿の種類	贈呈品
喜寿（77歳）	カタログギフト電報+花 （1万円相当）（5千円）
米寿（88歳）	
白寿（99歳）	

（注：年齢は満年齢でNTT東日本が把握し贈呈しております）

■弔慰金の取扱いについて（勤続20年以上の退職者対象）

NTT東日本から以下のとおり香典をお贈りしています。

本人・・・30,000円

配偶者・・・10,000円

※贈呈期限については、長寿お祝いは該当年齢の誕生日から
弔慰金は死亡の事実が発生した日から、それぞれ2年以内と
なります

長寿のお祝いおよび弔慰金に関するお問合せは
NTT東日本-東北 総務部 総務担当へご連絡ください
TEL：022-269-2020

◎表紙写真の紹介

シリーズ よみがえるあのころ

～電話がみえる心の風景～

「祭りにテレカだ！」

机の奥にしまっていたテレカ。ふとしたことで出てきて暫く眺めてしまいました。

「テレホンカードはいかがですか？」夏祭りの日、職場の仲間と汗を拭きながら販売したことが昨日のように思い出されます。

それにしても色々作ったものです。「お宝」になるまでもう少しとおうかな、孫にあげたら喜ぶかな、そんなことを思いながら表紙絵にしてみました。

●●●編集後記●●●

会報表紙絵を「電話が見える心の風景」と題し各支部から投稿していただき3作目となりました。一枚の写真から当時の仕事、仲間、家族等々様々なことが広がっていきます。

たまには昔住んだ社宅の跡でも訪ねてみたい気持ちになります。あの頃、賑やかな声で走り回っていた子供達は立派な大人でしょうね…。皆さんの「心の風景」はどんな風景でしょうか。

賛助会員企業様のコーナーも各社から心良く(?)ご協力をいただき、楽しく読ませて

いただいています。NTTもグループ各社も仕事の内容が以前とは大きく異なってきた中、各社の取り組みを簡明に伝えていただき非現行化歴10年以上の小生には「へー、ホー」の連続です。更に、投稿者の方は多趣味の方が多いに驚きます。完全リタイアの後は是非、電友会サークルでご活躍いただきたいものです。これから登場していただくもどうぞ気軽に日頃のご自分を紹介して頂けると嬉しいです。

◆83号の巻頭言は、本年7月着任された、NTT東日本秋田支店長松浦寛様にお願いしました。心より感謝申し上げます。

◆次号(84号)会報について

・発行時期 平成31年1月1日

・原稿締切 平成30年10月20日(期日厳守)

◆次号(84号)の巻頭言は、NTT東日本宮城事業部様、電友会宮城支部にご協力をお願い致します。
(S・T)

東北電友会会報

第83号

平成30年8月1日発行

電友会東北地方本部

〒984 8519 仙台市若林区五橋3-2-11

NTT五橋ビル内

電話 022-212-1443

FAX 022-212-1444

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

新入会員募集しています

電友会では、常時、新会員の受付をしています。

皆様のご友人で入会されていない方がおいでになりましたら、

ぜひ、入会を勧めていただきますようお願いいたします。

【お問合せ・連絡先】

電友会東北地方本部 電話(022)212-1443